

都市再生整備計画 事後評価シート
三条市中心市街地地区

令和3年3月

新潟県三条市

様式2-1 評価結果のまとめ

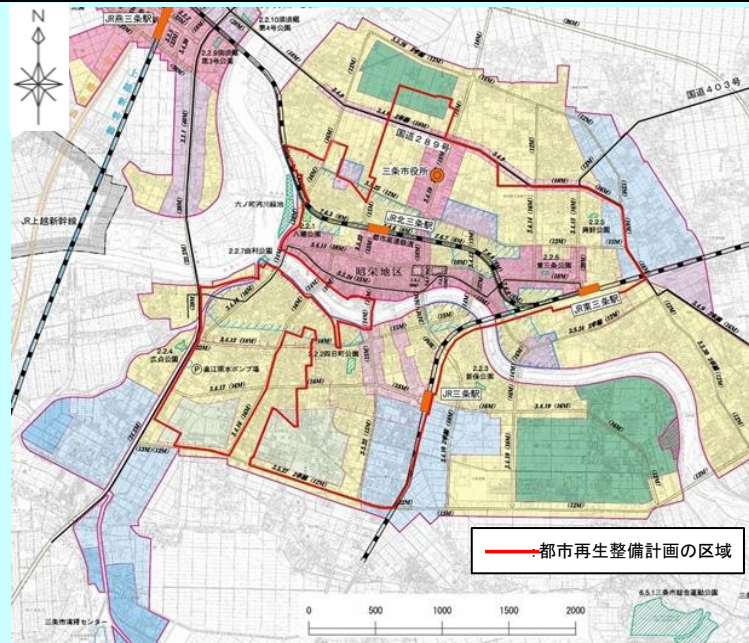
都道府県名	新潟県		市町村名	三条市		地区名	三条市中心市街地地区		面積	513.6ha	
交付期間	平成27年度～平成31年度		事後評価実施時期	令和2年度		交付対象事業費	5,820.4百万円	国費率	0.482		
1)事業の実施状況	事業名										
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路、公園(12件)、地域生活基盤施設(4件)、高質空間形成施設、地方都市リノベーション推進施設(2件)、既存建造物活用事業(高次都市施設)								
		提案事業									
	当初計画から削除した事業	事業名		削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> ①地域生活基盤施設(元町地内排水路整備) ②道路(市道三条校裏通り線) ③公園(東三条公園) ④公園(八幡公園) ⑤公園(東三条児童遊園) ⑥公園(一ノ門児童遊園) ⑦公園(神明町児童遊園) ⑧公園(横町児童遊園) 	<ul style="list-style-type: none"> ①住民から、整備を取りやめてもらい、排水路整備後の管理を地元で調整したい旨の申し出があり、事業を削除したものの。 ②図書館、鍛冶ミュージアムの整備に伴い、周辺道路等のまちづくりを検討中のため、本計画期間内の事業実施を見送ることとし、事業を削除したものの。 ③～⑧平成29年度に策定した公園管理計画に則って、令和2年度以降に公園整備に取り組むこととなったため、平成31年度に事業を実施しないこととしたため、事業を取り下げたもの。 				<ul style="list-style-type: none"> ①市民ニーズに不足を来たすことがないと考えられるため、指標への影響は無い。 ②図書館、鍛冶ミュージアムの整備による指標への貢献で、本事業削除による指標への影響をカバーすると考えられるため、指標への影響は無い。 ③～⑧維持管理費等の交付対象経費の執行により公園管理を継続的に実施し市民ニーズに不足を来さないようにしていくため、指標への影響は無い。 			
		提案事業	-	-				-			
新たに追加した事業		基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> ①田島児童遊園(公園) ②高次都市施設(地域交流センター) ③高質空間形成施設(三条市ものづくり拠点施設) ④中心拠点誘導施設(図書館) ⑤中心拠点誘導施設(鍛冶ミュージアム) ⑥地域生活基盤施設(東三条広場) ⑦地域生活基盤施設(東三条駐車場) ⑧地域生活基盤施設(西本成寺地内内水対策) 	<ul style="list-style-type: none"> ①三条市総合計画に基づき、公園の利用者ニーズの変化を踏まえた中で、子育てしやすい環境の充実を図るため、親子で楽しめる魅力ある公園とするため、遊具の数と種類を再編するもの。 ②中心市街地にある施設の再編・集約化を図り、より一層の市民や来訪者など様々な世代が集い、文化・芸術やスポーツを通じて新たな人の流れによる賑わいと活力を創出することで、中心市街地の活性化を図るために事業を追加した。 ③平成28年4月に、当該施設に障害者支援事業者が入居したことから、平時においても車椅子利用者に対する施設の利便性向上が急がれており、本事業を通して足の不自由な高齢者や障害者も安心して利用できる施設となるために事業を追加した。 ④、⑤中心市街地地区における教養・教育活動の推進を担う環境については現状の施設では機能が不足し、来場者のニーズに応え切れていないため整備が必要である。そのため様々な世代が利用し、隣接する全天候型広場と連携することにより相乗効果を図り、教養・教育施設として新たな人の流れと賑わいを創出するため、また、図書館とともに文化・教育活動の推進を担う施設として、三条市文化の伝統である「ものづくり」についてより深く理解を深める環境を整備するため、事業を追加した。 ⑥、⑦東三条駅エリアは、郊外に大型店などの出店に伴い、中心市街地の空洞化が加速しにぎわいを失っているエリアの一画である。平成27年度東三条駅前等利用実態調査結果を基に、東三条駅周辺の魅力や利便性を広く発信し地域内外から新たな人の流れを創出する拠点となるように事業を追加した。 ⑧近年増加する豪雨に伴う西本成寺地内の浸水被害を軽減するために西本成寺地内内水対策を追加するものです。なお、指標への影響について、本事業は本成寺地区内での浸水被害対策として追加した。 				<ul style="list-style-type: none"> ①他の公園事業と合わせて一体的に整備効果を高める施設であることから指標への影響は無い。 ②スマートウエルネス三条の取組やそれらに付随した全天候型広場整備を核とした整備による「まちなかの平均歩行者数の増加」、スポーツ、文化、コミュニティ活動等、多彩な市民活動を育むエリアにおいて地域交流センター施設の整備による「文化・交流利用者数の増加」に貢献し、多くの人々がまちを歩き交い、その活力がまち全体に行き渡るよう、更なる「にぎわいの場の再生」に好影響を与えることが期待される。 ③追加する施設は単体での整備効果の発現が困難であるため、他事業と一体的に整備効果を高める施設であることから指標への影響は無い。 ④減少を続ける図書館利用者数を増加させる目的の達成を検証するとともに、周辺施設との連携による効果等を検証するために図書館入館者数を新たに設定した。 ⑤周辺施設との連携による効果等を検証するために三条鍛冶道場の入館者数及び、三条歴史民俗産業資料館の入館者数を新たに設定した。 ⑥、⑦東三条駅前の人の流れを創出することで、各指標の達成を確かなものとするため、指標への影響は無い。 ⑧本成寺地区での市民満足度向上に寄与するものです。また、当初設定した市全体での目標を達成するために必要となるものなので指標への影響は無い。 			
提案事業	-	-				-					
交付期間の変更	当初	-	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				-				
	変更	-									

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
2)都市再生整備計画に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標1	市民満足度調査(学力向上のための取組の充実、幼児教育と小・中学校教育の円滑な接続の推進が図られたか)	ポイント	3.050	H26	3.150	H30		2.833	△	あり ○ なし	子育て拠点施設、旭・裏館統合保育所及び嵐南保育所の整備、公園の再編を通して子育て環境が整えられたことによる。	
	指標2	市民満足度調査(中心市街地のにぎわいの再生)	ポイント	2.352	H26	2.540	H30		2.461	△	あり ○ なし	全天候型広場及び地域交流センターといった施設整備をはじめ、道路内滞留空間や市道新保裏館線外歩道といったまちなかを安心して歩くことのできる環境を整備したことによる歩行者数の増加。	
	指標3	市民満足度調査(水害対策(河川等の整備)の充実・強化により、市街地等の浸水被害が解消されたか)	ポイント	2.857	H26	3.131	H30		3.032	○	あり なし	南四日町地内、南新保地内における排水路整備、また西本成寺地内水対策による浸水被害の軽減が図られた。	
	指標4	まちなかの1日当たりの平均歩行者数	人	775	H26	915	H31		1,067	○	あり なし	全天候型広場及び地域交流センターといった施設整備をはじめ、道路内滞留空間や市道新保裏館線外歩道といったまちなかを安心して歩くことのできる環境を整備したことによる歩行者数の増加。	
	指標5	計画区域内の文化・交流利用者数	人	278,572	H26	282,997	H31		331,613	○	あり なし	全天候型広場及び地域交流センターといった施設を整備したことによる交流人口の増加。	
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期		
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等		
	モニタリング	降雨時における浸水状況の確認					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○	引き続き、降雨状況に応じた浸水状況の確認を行う。	
	住民参加プロセス	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						
	持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						

様式2-2 地区の概要

三条市中心市街地地区(新潟県三条市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
①定住の促進 ～若年世代の定住化～ ②にぎわいの場の再生 ～スマートウエルネス三条の推進やそれらに付随したまちなか交流拠点施設や地域交流センターを拠点としたにぎわいの再生～ ③防災・減災のまちづくり ～住民の安心・安全のための施策～	市民満足度調査(学力向上のための取組の充実、幼児教育と小・中学校教育の円滑な接続の推進が図られたか)	単位:ポイント 3,050 H26	3,150 H30	2,833 H30
	市民満足度調査(中心市街地のにぎわいの再生)	単位:ポイント 2,352 H26	2,540 H30	2,461 H30
	市民満足度調査(水害対策(河川等の整備)の充実・強化により、市街地等の浸水被害が解消されたか)	単位:ポイント 2,857 H26	3,131 H30	3,032 H30
	まちなかの1日当たりの平均歩行者数	単位:人 775 H26	915 H31	1,067 H31
	計画区域内の文化・交流利用者数	単位:人 278,572 H26	282,997 H31	331,613 H31



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ○更なるにぎわいの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地は高齢化率が高く、空洞化が進んでいるため、核となる公共施設の整備とあわせて、出掛けたくするような魅力がまちのあちこちに備わっていること併せ、外出を容易にし、歩きやすい環境を整えることが必要である。 ・本計画において整備した全天候型広場等の既存施設の間で、来場者の回遊性を高める取り組みを行う必要がある。 ・現在、同地区におけるにぎわいの創出を図るためには、スポーツの推進、文化や教養・教育活動及び交流活動の推進を3つの柱として、それぞれの機能を担う環境が必要である。 ○災害に強い安全、安心な生活環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道雨水整備などの進捗が遅れており、近年頻発する豪雨により、安心して暮らし続けられる居住環境に至っておらず、緊急的な浸水被害の軽減が求められている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ○更なるにぎわいの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・まちなかに市内外から人が集まり、集まるだけでなく、人が歩いて回遊し、様々な形での交流(＝多彩な交流)を生み出すことにより、至るところで人のにぎわいの連鎖反応が起こり、個人や様々なコミュニティ、地域経済に活力が生まれている状態の創出を図るため、まちなかのにぎわい創出円卓会議(以下「円卓会議」という。)を設置し、(1)まちなかの公共空間のデザインの検討(2)建設を予定している図書館等複合施設の機能に対する助言・提案を検討している(平成30年10月～)。 ・スポーツの推進及び交流活動の推進は拠点としての施設整備を行ったところであるが、教養・教育活動の推進を担う環境については整備が必要であるため、図書館を整備する。 ・三条の個性(中心市街地の歴史や、伝統的鍛冶技術などのものづくりの技術など)を知り、深めることで、まちなかの魅力を再発見できるまちにしたい。その拠点となる施設として鍛冶ミュージアムを整備する。 ○災害に強い安全、安心な生活環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・本計画で取組んだ新通川沿線の排水路整備は新水被害の低減に寄与したと考えられる。次期計画では引き続き新通川沿線の排水路整備の後、島田川沿線の排水路整備に取組む。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		○			
B. 目標を定量化する指標	○		JR東三条、北三条、三条駅の1日平均の乗車人員	-	まちづくりの課題や目標、事業内容と関連性の低い指標であり、事業の実施結果が指標の改善にうまく結びつかないため、削除した。
				【追加】まちなかの1日当たりの平均歩行者数 775人(H26)→915人(H31)	「賑わいの場の再生」を目標とする指標として、まちなかの1日当たりの平均歩行者数を総合計画で設定したものを準用し、平成26年度の通行調査実績(775人)にまちなか交流広場整備による利用者目標数を1日平均140人として設定した。
				【追加】計画区域内の文化・交流利用者数278,572人(H26)→282,997人(H31)	地域交流センターの施設追加に伴い、「賑わいの場の再生」を目標とする指標として、計画区域内において、新たに建設する地域交流センターに既存の公民館の交流機能を集約することに加え、本来の公民館が果たすべき社会教育を推進し、その後の交流活動に結びつけることにより、人口減少社会においても文化・交流利用者数を増加させていくための指標を追加した。
C. 目標値	○		市民満足度調査(中心市街地・商店街の活性化) 2,446ポイント(H31)	2,540ポイント(H31)	市民満足度調査で、当初、まちなか交流広場やその周辺における環境整備により4%上昇すると想定した。今後、核となる地域交流センターを追加することによる更なる賑わいの創出で、平成22年度から平成26年度のマルシェ並の8%上昇すると想定し、目標値を修正した。
			市民満足度調査(水害対策の充実・強化) 2,968ポイント(H31)	3,131ポイント(H31)	市民満足度調査で、平成22年度から平成26年度の降下は、平成23年豪雨災によるものであるが、近年、内水対策事業を推進していることにより、前回(平成22年度)結果の数値に達するものとして目標値を修正した。
D. その他(区域面積の変更)	○		471ha	513.6ha	西本成寺地内内水対策事業を行うことで、豪雨における浸水軽減を図り、防災・減災のまちづくりに寄与するため、事業の効果範囲を事業区域として追加したもの。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道三条校裏通り線歩車共存道路整備	3.0	歩車共存道路整備	-	-	図書館、鍛冶ミュージアムの整備に伴い、周辺道路等のまちづくりを検討中のため、本計画期間内の事業実施を見送ることとし、事業を削除したものの。	図書館、鍛冶ミュージアムの整備による指標への貢献で、本事業削除による指標への影響をカバーすると考えられるため、指標への影響は無い。	-	-
道路	市道新保裏館線外歩道整備	15.0	歩道整備(L=150m)	30.0	歩道整備(L=438m)	当初計画していた事業実施区間の他、歩道の地盤沈下、街路樹の根の成長による不陸が目立つ箇所を一体的に整備することで、安全で快適な歩行空間を創出し、周辺における賑わいを再生するための機能向上を図れるため、事業実施区間を延長し事業費が増額となったものの。	指標を達成するために必要な事業内容を実施したため、指標への影響は無い。	○	
公園	興野公園、憩パーク嵐南、東三条公園、四日町公園、八幡公園、東三条児童遊園、一ノ門児童遊園、神明町児童遊園、横町児童遊園、裏館児童遊園、西四日町児童遊園、島田児童遊園、田島児童遊園	80.2	園路、遊具、植栽等	25.1	園路、遊具、植栽等	成29年度に策定した公園管理計画に則って、令和2年度以降に公園整備に取り組むこととなったため、平成31年度に事業を実施しないこととしたため、事業を取り下げたもの。	維持管理費等の交付対象経費の執行により公園管理を継続的に実施し市民ニーズに不足を来さないようにしていくため、指標への影響は無い。	○	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	全天候型広場	195.5	全天候型広場整備 (敷地面積:1,756㎡、 建築面積:337.13㎡)	193.2	全天候型広場整備 (敷地面積:1,756㎡、 建築面積:337.13㎡)	事業実施による事業費の減額。	当初計画していた事業量を実施するために必要な事業費の増額であるため、指標への影響は無い。	○	
地域生活基盤施設	旧第一中学校跡地耐震性貯水槽施設	120.0	耐震性貯水槽(飲料水兼用100㎡型)整備	116.5	耐震性貯水槽(飲料水兼用100㎡型)整備	事業実施による事業費の減額。	当初計画していた事業量を実施するために必要な事業費の増額であるため、指標への影響は無い。	○	
地域生活基盤施設	南四日町地内排水路	829.8	排水路整備 (L=2,621.2m)	828.3	排水路整備(L=2,950m)	・地下埋設管移設補償費の増額。 ・実施設計により、当初予算額から事業費を減額した。	当初計画していた事業量を実施するために必要な事業費の増額であるため、指標への影響は無い。	○	
地域生活基盤施設	南新保外地内排水路	10.0	排水路整備(L=400m)	10.0	排水路整備(L=400m)	-	-	○	
地域生活基盤施設	元町地内排水路整備	12.0	排水路整備(L=155m)	-	-	住民から、整備を取りやめてもらい、排水路整備後の管理を地元で調整したい旨の申し出があり、事業を削除したものの。	市民ニーズに不足を来すことがないと考えられるため、指標への影響は無い。	-	-

地域生活基盤施設	東三条広場	-	-	8.5	広場整備(敷地面積:800㎡)	東三条駅エリアは、郊外に大型店などの出店に伴い、中心市街地の空洞化が加速しにぎわいを失っているエリアの一角である。平成27年度東三条駅前等利用実態調査結果を基に、東三条駅周辺の魅力や利便性を広く発進し地域内外から新たな人の流れを創出する拠点となるように事業を追加した。	東三条駅前の人の流れを創出することで、各指標の達成を確かなものとするため、指標への影響は無い。	○	
地域生活基盤施設	東三条駐車場	-	-	19.1	駐車場整備(敷地面積:1,600㎡、建築面積:13.2㎡)			○	
地域生活基盤施設	西本成寺地内内水対策	-	-	195.0	排水工(VS500、L=120m) 送水管(φ400 L=120m) 貯水槽(V=700㎡)	近年増加する豪雨に伴う西本成寺地内の浸水被害を軽減するために西本成寺地内内水対策を追加するものです。なお、指標への影響について、本事業は本成寺地区内での浸水被害対策として追加した。	本成寺地区での市民満足度向上に寄与するもの。また、当初設定した市全体での目標を達成するために必要となるものですので指標への影響は無い。	○	
高質空間形成施設	市道興野北三条線道路内滞留空間整備	6.4	モニュメント設置等	10.1	モニュメント設置等	事業実施による事業費の増額。	当初計画していた事業量を実施するために必要な事業費の増額であるため、指標への影響は無い。	○	
高質空間形成施設	ものづくり拠点施設	-	-	9.0	昇降機 1基	平成28年4月に、当該施設に障害者支援事業者が入居したことから、平時においても車椅子利用者に対する施設の利便性向上が急がれており、本事業を通して足の不自由な高齢者や障害者も安心して利用できる施設となるために事業を追加した。	追加する施設は単体での整備効果の発現が困難であるため、他事業と一体的に整備効果を高める施設であることから指標への影響は無い。	○	
既存建造物活用事業(高次都市施設)	子育て拠点施設	209.0	旧一ノ木戸小学校体育館子育て拠点施設整備(床面積 680㎡)	207.1	旧一ノ木戸小学校体育館子育て拠点施設整備(床面積 680㎡)	事業実施による事業費の減額。	当初計画していた事業量を実施するために必要な事業費の増額であるため、指標への影響は無い。	○	
高次都市施設	地域交流センター	484.7	地域交流センター整備(敷地面積 4,271.0㎡、床面積 7540.0㎡)	2,061.7	地域交流センター整備(敷地面積 8,847㎡、床面積 10,372㎡内訳)	中心市街地にある施設の再編・集約化を図り、より一層の市民や来訪者など様々な世代が集い、文化・芸術やスポーツを通じて新たな人の流れによる賑わいと活力を創出することで、中心市街地の活性化を図るために事業を追加した。	スマートウエルネス三条の取組やそれらに付随した全天候型広場整備を核とした整備による「まちなかの平均歩行者数の増加」、スポーツ、文化、コミュニティ活動等、多彩な市民活動を育むエリアにおいて地域交流センター施設の整備による「文化・交流利用者数の増加」に貢献し、多くの人々がまちを行き交い、その活力がまち全体に行き渡るよう、更なる「にぎわいの場の再生」に好影響を与えることが期待される。	○	
中心拠点誘導施設	旭・裏館統合保育所	826.0	保育所整備(RC2階建て、床面積1,450㎡)	1,026.8	保育所整備(1階RC、2階木造建て、床面積1,589.35㎡)	事業費の増額 ・RC造からRC造と木造の混構造への変更 ・実施設計での精査による延べ面積の増加及び事業費の増額 ・労務単価及び物価上昇による工事監理、建設工事費の増額 ・消雪工事追加による増額 事業費の減額 ・既存の旧旭保育所、旧裏館保育所の解体を行わず、別用途で建物を使用することになったため、解体費分の減額	定員を当初計画から変更したもではないため、影響は無い。	○	
中心拠点誘導施設	嵐南保育所	495.6	保育所整備(RC2階建て、床面積1,200㎡)	538.7	保育所整備(RC2階建て、床面積1,200㎡)	消雪工事追加による事業費の増額。	定員を当初計画から変更したもではないため、影響は無い。	○	

中心拠点誘導施設	図書館	-	-	380.6	図書館整備(床面積2,848㎡)	中心市街地地区における教養・教育活動の推進を担う環境については現状の施設では機能が不足し、来場者のニーズに応え切れていないため整備が必要である。そのため様々な世代が利用し、隣接する全天候型広場と連携することにより相乗効果を図り、教養・教育施設として新たな人の流れと賑わいを創出するため、また、図書館とともに文化・教育活動の推進を担う施設として、三条市文化の伝統である「ものづくり」についてより深く理解を深める環境を整備するため、事業を追加した。	減少を続ける図書館利用者数を増加させる目的の達成を検証するとともに、周辺施設との連携による効果等を検証するために図書館入館者数を新たに設定した。	○(本計画では設計まで)
中心拠点誘導施設	鍛冶ミュージアム	-	-	175.0	鍛冶ミュージアム整備(床面積1,310㎡)	中心市街地地区における教養・教育活動の推進を担う環境については現状の施設では機能が不足し、来場者のニーズに応え切れていないため整備が必要である。そのため様々な世代が利用し、隣接する全天候型広場と連携することにより相乗効果を図り、教養・教育施設として新たな人の流れと賑わいを創出するため、また、図書館とともに文化・教育活動の推進を担う施設として、三条市文化の伝統である「ものづくり」についてより深く理解を深める環境を整備するため、事業を追加した。	周辺施設との連携による効果等を検証するために三条鍛冶道場の入館者数及び、三条歴史民俗産業資料館の入館者数を新たに設定した。	○(本計画では設計まで)
都市再生交通拠点整備事業								
土地区画整理事業(都市再生)								
住宅市街地総合整備事業								

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし			
指標1	市民満足度調査(学力向上のための取組の充実、幼児教育と小・中学校教育の円滑な接続の推進が図られたか)	ポイント	H30年度実施の市民満足度調査の結果による。	2.734	H22	3.050	H26	3.150	H30	モニタリング	—	2.833	モニタリング	—		
										事後評価	確定 ○ 見込み		事後評価	△		
指標2	市民満足度調査(中心市街地のにぎわいの再生)	ポイント	H30年度実施の市民満足度調査の結果による。	2.173	H22	2.352	H26	2.540	H30	モニタリング	—	2.461	モニタリング	—		
										事後評価	確定 ○ 見込み		事後評価	△		
指標3	市民満足度調査(水害対策(河川等の整備)の充実・強化により、市街地等の浸水被害が解消されたか)	ポイント	H30年度実施の市民満足度調査の結果による。	3.131	H22	2.857	H26	3.131	H30	モニタリング	—	3.032	モニタリング	—		
										事後評価	確定 ○ 見込み		事後評価	○		
指標4	まちなかの1日当たりの平均歩行者数	人	中心市街地を構成する5つの商店街と全天候型広場前の1日の平均歩行者数を計測する。			775	H26	915	H31	モニタリング		1,067	モニタリング			
										事後評価	確定 ○ 見込み		事後評価	○		
指標5	計画区域内の文化・交流利用者数	人	地域交流センター、中央公民館、嵐南公民館、三条東公民館の利用者数を集計する。			278,572	H26	282,997	H31	モニタリング		331,613	モニタリング			
										事後評価	確定 ○ 見込み		事後評価	○		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	市民満足度調査の結果により、目標値に達することができなかったため。	前回(H26)調査と調査項目が異なり単純比較ができなかったため、相関関係を持つ項目(子どもの育ちへのきめ細やかな支援)を採用した。
指標2	市民満足度調査の結果により、目標値に達することができなかったため。	前回(H26)調査と調査項目が異なり単純比較ができなかったため、相関関係を持つ項目(外出機会の創出による健幸づくり)を採用した。
指標3	市民満足度調査の結果により、目標値を上回り達成していたため。	前回(H26)調査と調査項目が異なり単純比較ができなかったため、相関関係を持つ項目(水害対策の推進)を採用した。
指標4	まちなかの1日当たりの平均歩行者数を確認した結果、目標値を上回り達成していたため。	
指標5	計画区域内の文化・交流利用者数を確認した結果、目標値を上回り達成していたため。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
		単位	基準年度	基準年度	基準年度			
その他の数値指標1						モニタリング		
						事後評価		
その他の数値指標2						モニタリング		
						事後評価		
その他の数値指標3						モニタリング		
						事後評価		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・地域交流センター整備により区域内における人がつながり、交流する機会を充実させ、「暮らし」を豊かなものとし、人口の定着が図られた。
- ・南四日町地内排水路整備により、整備箇所周辺地域における豪雨時の浸水被害報告が少なくなった。
- ・子育て支援施設整備により、供用開始後のH28年度～令和元年度の施設利用者数が20万人(208,124人)に達した。* 同施設は整備前は旧一ノ木戸小学校体育館であったため、整備前の利業者数が無い。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)		
	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
三条市体育文化センター及び三条市総合体育館改築検討委員会	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)	○ 旧三条市体育文化センター及び旧三条市総合体育館を解体し、新たに建設する施設の整備に関する検討を行うため、平成27年平成27年1月～平成29年2月の7回にわたり開催。三条市内のスポーツ関係団体、文化団体関係者からなる委員により、新施設の機能及び規模及び管理運営(設備の重ね使い)等について意見としてまとめた。	令和元年12月1日供用開始
まちなかのにぎわい創出円卓会議(図書館等複合施設整備ワーキンググループ)	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)	○ まちなかの公共空間のデザインや公共施設の運用、運営、活用のあり方等を考える会議を、平成30年10月～令和2年8月の5回にわたり開催した。会議の一部として「図書館等複合施設整備ワーキンググループ」を開催し、まちなかにおける交流やにぎわい創出の中核となる図書館等複合施設とするために必要な機能(敷地全体の活用方針、建物配置、設備など)を検討し、図書館等複合施設建設基本計画を策定した。	計画に基づき建築工事を進める(次期計画に搭載)
図書館等複合施設建築設計ワークショップイベント	<input type="checkbox"/> 予定どおり実施した <input type="checkbox"/> 予定はなかったが実施した <input type="checkbox"/> 予定したが実施できなかった (理由)	○ 令和元年7月31日(水)開催。図書館等複合施設の在り方や活用方法について、市民の意見を反映させるため、児等のプレイゾーンの在り方、サイエンスホールの重ね使い、飲食等の図書館のルールなどについて、多世代で構成するグループによるディカッションを行い、新たな複合施設の運営に反映させるワークショップ、基調講演等を開催し、住民等の意見としてまとめた。	図書館、鍛冶ミュージアムの活用方法について得られた住民等の意見を反映した運営方法を検討する。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3	指標4	指標5	指標〇		
指標名		市民満足度調査(水害対策(河川等の整備)の充実・強化により、市街地等の浸水被害が解消されたか)	まちなかの1日当たりの平均歩行者数	計画区域内の文化・交流利用者数			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(市道新保裏館線外歩道整備)	-	各内水対策事業の進捗により、降雨時の浸水リスクを軽減することができた。今後も引き続き内水対策に取り組むことで安心安全な住環境とすることが期待される。	○	全天候型広場が整備され、これを中心として様々なイベントが開催されていることで、市民の外出機会を創出することにつながっている。また、近接する道路内滞留空間整備や、東三条広場/駐車場の整備により相乗効果が発揮され、本地区内での歩きやすい環境が整い、更なる歩行者数の増加が期待される。	-	令和元年12月に供用開始した地域交流センターと地域交流センターに既存の3つの公民館(中央公民館、嵐南公民館、三条東公民館)の交流機能が集約されたものと捉えられる。また、次期計画において整備予定の図書館、鍛冶ミュージアムの整備が完了した暁には各施設間の人の回遊が促進されることが期待される。
	公園(公園7箇所)	-		○		-	
	地域生活基盤施設(全天候型広場)	-		◎		○	
	地域生活基盤施設(旧第一中学校跡地耐震性貯水槽施設)	◎		-		-	
	地域生活基盤施設(南四日町地内排水路)	◎		-		-	
	地域生活基盤施設(南新保外地内排水路)	◎		-		-	
	地域生活基盤施設(東三条広場)	-		○		-	
	地域生活基盤施設(東三条駐車場)	-		○		-	
	地域生活基盤施設(西本成寺地内内水対策)	◎		-		-	
	高質空間形成施設(市道興野北三条線道路内滞留空間整備)	-		○		-	
	高質空間形成施設(ものづくり拠点施設)	-		-		-	
	高次都市施設(子育て拠点施設)	-		-		-	
	高次都市施設(地域交流センター)	-		○		◎	
	中心拠点誘導施設(旭・裏館統合保育所)	-		-		-	
	中心拠点誘導施設(嵐南保育所)	-		-		-	
中心拠点誘導施設(図書館)	-	-	-				
中心拠点誘導施設(鍛冶ミュージアム)	-	-	-				
提案事業							
関連事業							

※指標改善への貢献度

- ◎: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	内水対策事業の効果発現を確認する一つの指標として、今後も確認していく。	引き続き、同じ地点での計測を継続することで、まちづくり施策の効果を見ていく。	図書館、鍛冶ミュージアムの整備により都市機能が充足するので、その際の人の流れを計測するため、引き続き見ていく必要がある。
-------	-------------------------------------	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標2			指標○			指標○		
指標名		市民満足度調査(学力向上のための取組の充実、幼児教育と小・中学校教育の円滑な接続の推進が図られたか)			市民満足度調査(中心市街地のにぎわいの再生)								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路(市道新保裏館線外歩道整備)		子育て拠点施設、旭・裏館統合保育所及び嵐南保育所の整備、公園の再編を通して子育て環境が整えられたことにより、子育て環境の整備に寄与したが、市民ニーズを満足するために更なる施策の展開が必要である。	分類Ⅲ	◎	全天候型広場及び地域交流センターといった施設整備をはじめ、道路内滞留空間や市道新保裏館線外歩道といったまちなかを安心して歩くことのできる環境を整備したことによる歩行者数の増加を要因としてにぎわいの再生が図られたが、市民ニーズを満足するために更なる施策の展開が必要であ	分類Ⅲ						
	公園(公園7箇所)	○			○								
	地域生活基盤施設(全天候型広場)				◎								
	地域生活基盤施設(旧第一中学校跡地耐震性貯水槽施設)												
	地域生活基盤施設(南四日町地内排水路)												
	地域生活基盤施設(南新保外地内排水路)												
	地域生活基盤施設(東三条広場)				◎								
	地域生活基盤施設(東三条駐車場)				◎								
	地域生活基盤施設(西本成寺地内内水対策)												
	高質空間形成施設(市道興野北三条線道路内滞留空間整備)				◎								
	高質空間形成施設(ものづくり拠点施設)				○								
	高次都市施設(子育て拠点施設)	◎			◎								
	高次都市施設(地域交流センター)				◎								
中心拠点誘導施設(旭・裏館統合保育所)	◎	○											
中心拠点誘導施設(嵐南保育所)	◎	○											
中心拠点誘導施設(図書館)		○											
中心拠点誘導施設(鍛冶ミュージアム)		○											
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、
指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、
ある程度の効果をあげたと思われる。
- ー: 事業と指標の間には、もともと関係がないことが
明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	産後女性の心身のケアや育児のサポート、日常生活を営む上で医療的なケアが必要な子どもを保育所で受け入れるための体制を整備する。また、子ども医療費の助成制度を拡充する等の出生率を向上させる子育て支援策等を実施し、安心して子育てを楽しめる環境の形成を目指す。	まちなかにおける交流の創出について、その拠点ともなる図書館等複合施設の整備を着実に進めるほか、歴史民俗産業資料館の機能の充実、中央公民館の魅力の向上に取り組み、それらを結び付けることで、面的な展開を図る。	
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
○若年層の転出 生産年齢層の中核となる子育て世代に対しては、安心して子どもたちを任せられる教育環境が必要である。	保育所環境(旭・裏館統合保育所、嵐南保育所)の整備を図り、子育て支援施設を整備することで子育て層のまちなかへの入込み機会を拡大することができた。また、公園遊具等の施設の全面的改築をにより、子育て世代などが利用しやすい環境を整えることができた。	子どもの育ちへのきめ細やかな支援をするため、更に施策を展開し市民ニーズに応じていく必要がある。	
○更なる賑わいの創出 中心市街地の核となる公共施設の整備や、市民の誰もが生涯にわたり健康で幸せに暮らし続けるため、出掛けたくなくなるような魅力がまちのいたるところに備わっていることと併せ、外出を容易にし、歩きやすい環境を整えることが必要である。	交流拠点や歩きやすくなる環境を整備することで、市民の外出機会を創出することができた。 地域交流センターの整備による施設の再編や機能を集約化することで、人口減少社会においても交流人口を増加させることができ、市民や来訪者など様々な世代が集い、文化・芸術やスポーツを通じて新たな人の流れによる賑わいと活力が創出され、中心市街地の更なる活性化に寄与している。	にぎわいを創出するための柱の一つである教養・教育活動及び交流活動の促進を担う拠点施設(図書館、鍛冶ミュージアム)を整備することで、市民や来訪者の回遊性が高まり、中心市街地の更なる活性化につなげる。	にぎわいの創出を目的として今期で整備した各施設と、次期計画で整備する施設間での人の回遊性を高めることで、施設整備効果を相乗的に発揮できるような仕掛けが必要である。 また災害に強いまちづくりのために、地区内の浸水面積をOhaにすることは、地形等の関係で問題解決に至るには困難であると考え。しかし、継続的に浸水想定箇所をモニタリングし、迅速な通行止めや迂回路の確保等について状況を見極め判断する事が課題である。
○災害に強い安全、安心な生活環境整備 公共下水道雨水整備などの進捗が遅れており、近年頻発する豪雨により、安心して暮らし続けられる居住環境に至っておらず、緊急的な浸水被害の軽減が求められている。	南四日町地内排水路整備を始めとした各種内水氾濫対策に取組み、豪雨時の浸水想定区域を軽減することができている。	当初から予定しているが未着手の島田川沿線排水路整備を計画的に進める。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	更なるにぎわいの創出	まちなかに市内外から人が集まり、集まるだけでなく、人が歩いて回遊し、様々な形での交流(=多彩な交流)を生み出すことにより、至るところで人のにぎわいの連鎖反応が起こり、個人や様々なコミュニティ、地域経済に活力が生まれている状態を創出する仕掛けづくりに取り組む。	・まちなかのにぎわい創出円卓会議に基づく各事業 ・まちなかウォークブル推進事業
	浸水想定箇所の継続的なモニタリング	浸水時における迅速な通行止めや迂回路の確保等について状況を見極め判断する必要がある。	都市施設の継続的な維持管理業務

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	子育て世代の住みやすい環境の創出	安心して子育てを楽しめる環境の形成を目指す施策展開。	施政方針に基づく子育て支援事業
	更なるにぎわいの創出	教養・教育活動及び交流活動の促進を担う拠点施設の整備に取り組む。	都市構造再編集中支援事業：三条市中心市街地地区(第二期)(図書館、鍛冶ミュージアム整備)
	災害に強い安全・安心な生活環境の整備	内水対策として排水路整備等を図り、豪雨による浸水被害の軽減を図る。	都市構造再編集中支援事業：三条市中心市街地地区(第二期)(南四日町地内内水対策)

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標4、5については定量的な分析を行うことができた。	無くなる恐れのない指標と市民満足度調査のようなアウトカム指標を併用することが重要
	うまくいかなかった点	指標1、2、3については前回(H26)調査と調査項目が異なり単純比較ができなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		指標4について、継続的に記録観測していくことでまちづくり事業の効果を図れる。そのためには、観測時期や気象条件、計測時点を揃えることが肝要である。
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	目に見えた形で浸水の解消が進んだことにより、事業の情報として広く市民に知っていただけた。全天候型広場、地域交流センターについては交流拠点として全国的に注目を集めることに成功している。	御祝儀相場としての施設利用者数に満足せず継続して人を呼び込めるよう情報公開に取組み、住民参加の意見に基づく市民と協働でのにぎわい創出に努める。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

- ・今後の都市再生整備計画事業の活用予定…都市構造再編集中支援事業:三条市中心市街地地区(第二期)
- ・今後、事後評価を予定する地区…都市構造再編集中支援事業:上須頃地区

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページを通してインターネット上で評価結果	令和3年3月15日～3月30日	令和3年3月15日～3月30日	担当課への郵送、 FAX、Eメール、持参	建設課
広報掲載・回覧・個別配布	-	-	-		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	-	-	-		

住民の意見	なし				
-------	----	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	新潟県三条地域振興局 計画調整課長 佐々木 正壽	令和3年3月5日～22日 (書面会議による開催)	建設課	三条市都市再生整備計画に係る実施事業事後評価委員会要綱	独自に設置
その他の委員	三条商工会議所 地域活性化まちづくり委員会委員長 長岡 信治 三条市自治会長協議会 会長 佐藤 栄 子育て支援グループ「かるがも」代表 佐藤 房子				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	-
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標について、指標1、2は当初と調査項目が変更となったが、概ね目的を達成していると見られる。 ・防災(水害)に関しては、本地区での浸水被害が軽減され成果が上がっていると思う。
	実施過程の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加のワークショップや委員会を実施し、反映しながら計画を進めており、住民ニーズと整合を図り、事業見直しを行っていることについて評価できる。 ・アンケートなどを実施しているが、計画の変更等については、市民への周知が不足していたのではないかと。
	効果発現要因の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・交流拠点を利用したイベントが開催されることで、にぎわいが創出されていると思う。 ・保育所施設の整備により子育て環境が良好になった事は、若い子育て層に良い印象であると思われるし、又、現に、宅地化が進み人口が増えている様である。 ・市民が実感できる変化を感じてくれたかどうかを客観的な数値で検証できたら良いと思う。例えば市民がまちづくりに自主的に参加しているかを図る指標があると良いと思う。
	事後評価原案の公表の妥当性	特になし
	その他	-
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	特になし
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	特になし
	フォローアップ	・次回、フォローアップ調査での評価を通して、効果の発現について確認をお願いしたい。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画の推進を継続し、次の世代につないでください。住民が三条に住んで良かったと感じられる施策をお願いします。 ・本地区への人の流れを増やすことに関しては、事業を今後も継続して展開していく必要がある。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・次期計画で予定されている図書館や鍛冶ミュージアムの整備による、交流人口の拡大などを期待します。 ・人の流れが中心市街地へ向かっていくために、道路、歩道の整備が必須だと思う。スマートウエルネスの推進にも必要不可欠である。 ・高齢者の外出を促す魅力ある商店街や居場所作りが必要である。 ・現状の三条市と周辺市町村との動線を見据えての事業だと思う。そしてこの5年間に上がった成果を持続可能かどうか問われる時機である。三条市を地勢的にとらえた動線で市民の人の流れを誘導してほしい。中心市街地のにぎわいはそこから自然発生していく。
その他		-

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--